2024

美術準備室

つくる・みる・感じとる

第25号

光村図書



アトリエ訪問
建築家
隈 研吾

アートが生まれるとき
木村全彦

この1点
「自画像」篠原ともえ

特集
国立西洋美術館へ行こう!

本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

アトリエ訪問

第 25 回

隈 研吾

建築家

今や街を歩けば、至る所で出会うことができる隈研吾の建築。
木や石などの素材を最大限に生かしたその空間は、
多くの人々に安らぎと感動を与えてきた。現在もおよそ50か国で、
400近くのプロジェクトが進行中。世界中を飛び回る
彼が拠点とする、東京の事務所に伺い、
建築への思いを語ってもらった。

撮影 永野雅子

多くのファッションブランドの店舗や飲食店が立ち並ぶ、東京・青山。華やかな大通りから一本小道に入り、涼やかな竹林を横目に歩を進めると、とある建物から、さまざまな国の人が出入りしているのが見える。この建物こそが、隈研吾建築都市設計事務所だった。



屋上のテラス。見晴らしのよいこの場所で、自由に椅子を並べて、打ち合わせを行う所員の姿も。

――青山という地に事務所を建てたのはなぜですか。

隈　まず自分が好きな街で仕事をしたかった。好きな街には、多分その街の感性と自分が響き合うものがある。そういうところに事務所を置くと、その感性に共感する仲間が集まってくるでしょう。そういった人たちと仕事をすることが大事だと思ったんです。そして、明治神宮外苑の森が近くにあるところもいい。学生の頃ずっとそこのテニスコートでテニスをしていたから、僕にとって外苑の森は遊び場なんです。あとは、いろいろなファッション関係のお店もあって、その界隈の人たちが集まるような飲み屋さんもある。緑もあるし、夜の遊び場もあるのがこの辺のいいところかな。

――仕事で海外に行かれることが多い隈さんにとって、この事務所はどのような場所ですか。

隈　ここは僕のライブラリーでもあります。設計の打ち合わせだけじゃなくて、原稿も書く。そのために必要な本が全部集まっています。僕にとって、設計やデザインをすることと、そのデザインしたものをテキストによって整理するっていう両方の行為が大事だから、自分が読んできた本がここに集まっていて、いつでも参照できるということがすごく大事なんです。



デスクスペースの書棚。
建築や美術関係の書籍などが所狭しと並べられている。

――外国の方が出入りしている様子を何度も見ました。

隈　今や外国人の所員のほうが多くなりました。みんなそれぞれの国の文化を持ち寄ってくるから、日常会話の中でも、ローカルな、生の情報がたくさん手に入るんです。よく事務所の屋上のテラスで、パーティをしたりして、みんな交流を深めていますよ（笑）。室内よりも室外の空間のほうが、人間をリラックスさせてクリエイティブな空間をつくると思っています。だから、事務所を設計するとき、このテラスを思いっきり広くとることにこだわりました。ここで建築に使うサンプルのチェックをしたりもします。石やタイルとかを屋外に並べてみて、太陽の光で見て、この材料がいいなって決めています。

「日本文化の大使みたいな役割を果たしていきたい。」

――光村図書の高等学校教科書『美術 2』(P.46～47）では、中国のホテル「Great（Bamboo）Wall」などを、スケッチとともに掲載させていただきました。

隈　スケッチには僕の気持ちを込めることができる。建物をどういう風にしたいのか、この素材をどのように使いたいのか、みたいなことをスケッチだと伝えることができるから、大事にしています。



Great（Bamboo）Wall（中国）
2002年
万里の長城の近くに建つホテル。
写真は建物の中央にある、
水面に浮かぶように配置された茶室。

「Great（Bamboo）Wall」は20年以上前に設計した建物ですが、当時、日本の建築現場のレベルは非常に高かったのに対して、中国はまだまだでした。現場の人間に竹を持ってきてと言ったら、まっすぐな竹じゃなくて、全部曲がっている竹を持ってきて、「これしかない」みたいな感じで（笑）。それだから、曲がった竹を逆にうまく並べれば、まっすぐな竹よりおもしろくなるんじゃないかということを考えながらつくりました。日本でずっと仕事をしていたら、そういうやり方は学べなかったんじゃないかなあ。



スケッチには木炭を用いる。

――素材を大切にする隈さんにとって、契機となる作品だったんですね。

隈　建築物っていうのは、形よりも素材のほうが人間に対して、アピールできるんじゃないかと考えています。専門家の世界では形が重視されがちだけど、一般の人にとっては、建築って素材だと思うんです。その素材がしっくりくるかとか、自分をリラックスさせてくれるかとか。そういう一般の人の視点で建築をデザインしているので、素材は大切になってきます。

僕が目ざしてきた建築は、素材を大事にする、柔らかさを求める、周りと調和しているといった日本の伝統文化と通ずるものがあると思っています。そして今、そういった考えが世界から求められている気がするんです。日本人は宝をもっています。その誇りを日本人が取り戻すような建築を、海外にはその魅力をもっと発信していけるような建築をつくりたい。そういう意味では、日本文化を伝える大使みたいな役割を、これからもっと果たしていきたいなと思っています。

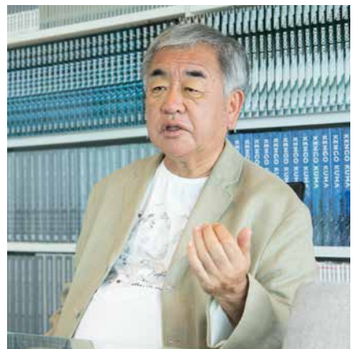


事務所は二つの建物に分かれており、一方の事務所のミーティングルームからは、
自身が設計した国立競技場を一望することができる。
「外苑の森に合うような、大きいけれど神社みたいなものをつくりたかったんです。」

――最後に美術を教える先生方にメッセージをお願いします。

隈　美術っていうのは、単に絵を描く技術の問題だけじゃない。作品を通じて、世界のいろいろな問題を考えることができるものです。そういった視点で、美術を教えてもらえたらいいなって思います。

あとは、子供たち一人一人と話せる機会があるといいんじゃないかな。僕自身、学生の頃に美術の先生に呼び出されて、「君は建築をやったらいいと思うよ」と言ってもらえたことにすごく励まされた。子供っていうのは、そういうちょっとした先生の言葉で大きく変わると思います。



くま・けんご
1954年神奈川県生まれ。東京大学大学院建築学専攻修了。1990年、隈研吾建築都市設計事務所設立。自然と技術と人間の新しい関係を切り開く建築を提案し続けている。第80回恩賜賞・日本芸術院賞、第51回毎日芸術賞、第61回芸術選奨文部科学大臣賞など多数受賞。著書に『点・線・面』『負ける建築』(岩波書店)、『日本の建築』『自然な建築』『小さな建築』(岩波新書)など。現在、東京大学特別教授・名誉教授。

特集

国立西洋美術館へ行こう！

東京・上野公園内に位置する国立西洋美術館。
世界文化遺産にも登録され、
西洋美術を専門とする、日本随一の美術館です。
今回の特集では、所蔵作品から
力を入れている取り組みまで、
その魅力をたっぷりとご紹介します。

撮影 永野雅子　イラスト SANDER STUDIO
協力 国立西洋美術館

2022年のリニューアルオープンに際して、
開館当時の姿にできる限り近づけられた前庭。
開放的な空間に配置された
ロダンの彫刻作品が、来館者を出迎える。

INFORMATION

国立西洋美術館

〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
開館時間　9:30～17:30
　　金・土曜日　9:30～20:00
　　※入館は閉館の30分前まで
月曜日休館（祝休日の場合は翌平日）
https://www.nmwa.go.jp/

日本では過去最大規模の、クロード・モネ《睡蓮》が集う、「モネ 睡蓮のとき」展を開催中。
（会期：2024年10月5日～2025年2月11日）

生徒たちにここを見てほしい！



修学旅行などでも訪れる機会が多い国立西洋美術館。
特に着目してほしい点をご紹介します。



日本唯一のル・コルビュジエ建築

20世紀を代表する建築家である、ル・コルビュジエ［1887～1965 スイス］。国立西洋美術館は、日本で唯一のル・コルビュジエによって設計された建物だ。常設展示室に入るとすぐ「19世紀ホール」（左写真）がある。ル・コルビュジエによって名づけられたここは、吹き抜けの空間となっており、三角形の天窓からは、やわらかな自然光が差し込む。奥に見える2階へ続くスロープからは、登るにつれ変化する景色を楽しむことができる。



19世紀ホールを取り囲むように配置されている展示室。
せり出した回廊状の小部屋は天井の高低差を
生み出すとともに、室内に光を届けている。

高等学校教科書『美術1』 P.64 ～ 65では、
ル・コルビュジエの生涯と作品について詳しく解説しています。

西洋美術史を学べる常設展

国立西洋美術館には、約6,000点の作品が所蔵されている。常設展では、14世紀から20世紀半ばまでの作品が時代順に展示されているため、西洋美術史のおおまかな流れを学ぶことができる。中学校・高校の教科書に掲載されている、美術史年表を片手に鑑賞すると、より理解が深まりそうだ。ロダン、モネ、ピカソなど、教科書に掲載されている作家の作品も多数展示されている。





三連祭壇画：キリスト磔刑　油彩、板
中央部:116×83㎝　両翼部:117×36㎝　16世紀前半
ヨース・ファン・クレーフェ［1485年頃～1541年頃 南ネーデルラント］

磔（はりつけ）にされたキリストを中心にして、人々が集います。横のパネルにいる男女はこの絵の注文主。二人は絵の前で、まさにこのポーズで祈りを捧げたことでしょう。しかしなんといってもこの絵を特徴づけるのは、背後に広がる風景です。視点を高く取ることで深い奥行きが与えられ、そこには山や川、町など、この世に存在するあらゆるものが細かく描き込まれています。視線を動かし世界を旅することが、すなわち絵を観る喜びとなります。

外せない作品5選!

高等学校『美術』教科書の
編集委員を務める渡辺晋輔先生に、
美術館に訪れたらぜひ観てほしい作品を、
5点選んで解説していただきました。



渡辺晋輔（わたなべしんすけ）
国立西洋美術館学芸課長。
専門はイタリア美術史。「アルチンボルド展」
「ルーベンス展―バロックの誕生」などを企画担当。



ルーベンスはとても家族思いの人でした。仲がよかった兄が亡くなった後は、親代わりとなってその子供たちを可愛がりました。この絵にはそんな画家の心情がにじみ出ています。素早い筆づかいと的確な色彩によって、二人の子供はまるで画中で息をしているかのようです。実はルーベンスは、別の絵を描く際の参考とするために、この絵を描きました。二人の顔はそれぞれ別の大きな絵のなかに、天使として登場します。

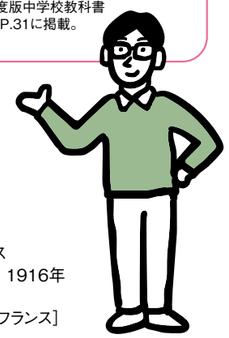


眠る2人の子供　油彩、板
50.5×65.5㎝　1612～13年頃
ペーテル・パウル・ルーベンス［1577～1640 ドイツ］

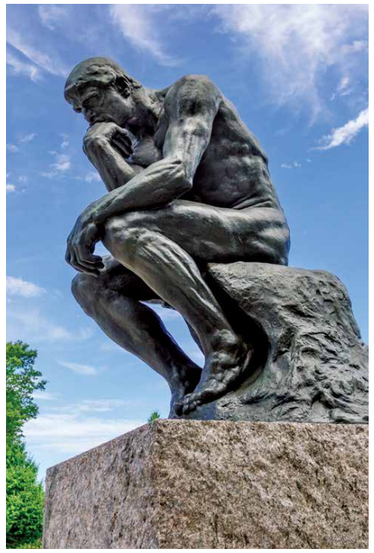


モネは50歳を過ぎた頃、パリからセーヌ川を下った小村ジヴェルニーの自邸の敷地に庭園をつくります。そこには睡蓮を浮かべた池もありました。彼は時や天候によって表情が変化する池の様子を、繰り返し描きました。この絵に取りかかるまでに、実に20年以上も睡蓮を題材にし続けています。水面に浮かぶ睡蓮、水中の様子、反射する空や木立を、大胆な筆づかいによって描く表現方法は、後の美術を予告するものです。

※令和3年度版中学校教科書
『美術2・3』P.31に掲載。



睡蓮
油彩、キャンヴァス
200.5×201㎝　1916年
クロード・モネ
［1840～1926 フランス］

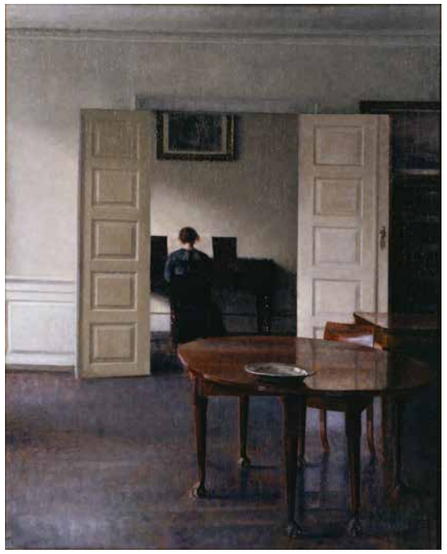


ロダンは当初、詩想にふける詩人ダンテとしてこの像を構想し、巨大な彫刻《地獄の門》の一部に、このポーズを取る小さな像をはめ込みました。その後、《地獄の門》から独立した彫刻となった結果、この像は思索し何かを創造する、普遍的な人間を表すようになりました。ただ思索しているだけの像ですが、そこには確かに生命や人間性が感じられます。ロダンが「近代彫刻の父」と言われるゆえんです。

※令和7年度版中学校教科書『美術2・3』P.99、高等学校教科書『美術1』P.109～110に掲載。

考える人（拡大作）
ブロンズ　高さ186㎝
1902～03年
オーギュスト・ロダン
［1840～1917 フランス］
撮影：©上野則宏

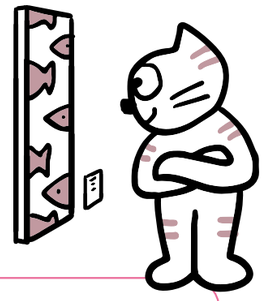
ピアノを弾く妻イーダのいる室内
油彩、キャンヴァス
76×61.5㎝　1910年
ヴィルヘルム・ハンマースホイ
［1864～1916 デンマーク］



日常の一瞬を切り取ったかのように見えますが、よく見ると違和感に満ちています。ぽつんと机に載せられた銀の皿、一脚しかない椅子、図柄のわからない版画。そして何より、顔の見えない妻と、ピアノの音がまったく聴こえない静寂な世界。19世紀末のデンマークの画家ハンマースホイは、日常を題材にしつつ、謎めいた雰囲気を描き出しました。

教育普及活動のご紹介

美術館では、より多くの人に美術に親しんでもらえるよう、
日々さまざまな活動が行われています。
その中から、学校向けのプログラムをご紹介します。



教員研修

学校の先生向けの美術館利用や鑑賞教育に関する研修。
内容は、参加者の希望に合わせて構成する。
今回は、2024年8月の、埼玉県高等学校美術・工芸教育研究会の研修の様子を紹介する。



楽しみながらアートカードのワークショップに取り組む先生方。



職員が、美術館の効果的な活用のしかたを丁寧に紹介。

主な流れ(約2時間)

ワークショップ

この日はアートカードを使ったワークショップが行われた。アートカードは、鑑賞の授業が苦手な先生でも取り組みやすいツールだ。参加者は実際にアートカードを使って、そのよさを実感していたようだ。

※「国立美術館アートカード・セット」は、国内の国立美術館の作品を収録。

↓

講義

職員が美術館の活用のしかたや、美術館が提供する鑑賞教材を説明。高校生は常設展を無料で観覧できることや、美術館のウェブサイトにはさまざまな鑑賞教材が用意されていることなど、耳寄り情報が盛りだくさんだ。

↓

自由時間

常設展や企画展の作品を自由に鑑賞。

\ 国立美術館が関わる /
鑑賞教材のご案内

詳細はこちらから。

- **アートカード・セット**
- **鑑賞素材ボックス**
  端末上で高精細作品画像を鑑賞することができる
- **ソーシャルストーリー**
  誰もが安心して美術館を楽しむためのガイド
- **アクティビティブック**
  常設展や建物を楽しむためのワークシート集

参加された先生方の声

●近年、鑑賞教育が重視されるようになってきました。ただ、鑑賞の授業をどう行ってよいかわからないという先生が多いため、研修を設定したいと思い、今回申し込みをしました。(研修担当・S先生)

●鑑賞の授業は難しいイメージがありましたが、今回の研修を受けて、美術館を利用した鑑賞の時間をもっと増やしていきたいと思いました。(T先生)

●自分は特別支援学校が併設されている学校に勤務しているので、特別支援の人向けの教材について、相談できる点がとてもよいと思いました。(K先生)

スクール・ギャラリートーク

時代やジャンルが異なる絵画作品2点、彫刻作品1点を鑑賞する対話型のギャラリートーク。
子供たちは10人以下のグループに分かれ、ボランティアスタッフとともに、各作品を鑑賞して回る。



《地獄の門》を鑑賞する生徒たち。

主な流れ(約2時間)

鑑賞&トーク

常設展で展示されている作品を3点、対話しながらじっくり鑑賞。子供たちは、作品を鑑賞して感じたことや考えたことを自由に話し合う。ボランティアスタッフは、子供が主体的に鑑賞できるよう、サポートする。鑑賞する作品は、グループや時期によって変化する。

〈鑑賞作品例〉

●オーギュスト・ロダン《地獄の門》
●カミーユ・コロー《ナポリの浜の思い出》
●ジャクソン・ポロック
《ナンバー8, 1951　黒い流れ》

↓

自由時間

常設展の作品を自由に鑑賞。

※両プログラムは美術館のウェブサイトより、申し込みが可能です。

2024年内に完成予定! 「みんなの3Dロダン図鑑」って?

回転・拡大して鑑賞!

どんなコンテンツ?

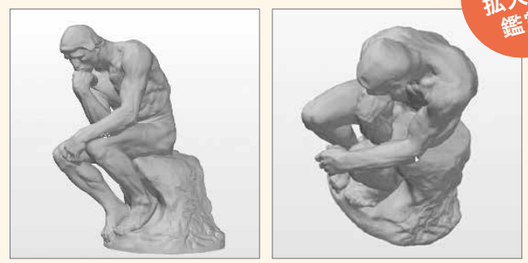
国立西洋美術館が誇る、オーギュスト・ロダンの彫刻作品全60点を、3Dでデータ化し、特設サイト「みんなの3Dロダン図鑑」として公開!3Dモデルは自由に回転したり、拡大したりすることができるため、作品を細部まで鑑賞できる。普段は観ることができない視点から、ロダン作品を楽しもう。

何のために?

豊かなロダンコレクションを、より多くの人に見てほしいという思いから、企画は生まれた。また、このコンテンツは作品の「デジタルアーカイブ」の役割も担う。学校現場での活用はもちろん、万が一の災害などに備えて、作品の細部を精確に記録しておくことができる。

どのようにつくる?

特殊なスキャナーを用いて作品を3D計測し、データ化。この3D計測は、LEDの光を照射し、光の反射によってデータを取得していく。



完成イメージ



スキャナーでの計測の様子。



アートが生まれるとき

第3回｜きむら・まさひこ

木村全彦

1984年　京都府生まれ

このコーナーでは、
毎回アール・ブリュット(※)の
作家を一人取り上げ、
滋賀県立美術館ディレクターの
保坂健二朗先生に、
ご紹介いただきます。

※アールブリュットとは、「生の芸術」を意味するフランス語で、評価や流行とは関係なく、「つくりたい」という衝動から制作された独自の表現を指します。

楔形が生み出すイメージ

木村全彦の作品の特徴。それは、風景、人物、車、建物、何を描いても、画面のほとんどを小さな形が覆っている点にあります。その形は、三角形、四角形、木や山のような形、幾何学的としか言えない形などさまざまにありますが、なかでも楔形がいちばん多いように思えます。ですので、とりあえずここでは、それらの形を総称して「楔形」と呼ぶことにしましょう。

楔形が、その絵に描かれているメインのモチーフとは別の法則により画面のほぼ全体を覆った結果どうなっているか。ひとつは、画面全体が埋め尽くされていることで、独特の静けさが訪れています。一方、形の一つ一つに向きが感じられることや、形と形の間に生まれる空間の粗密がさまざまであることから、うねりのような動きも生じています。この、静謐と動勢とが共存しているという点に、木村の作品の最大の特徴があります。

もうひとつ見逃してならないのは、楔形から強い筆圧を感じられることです。木村が用いているのは普通の色鉛筆ですが、作品を見ると、木版画の版面のようにも思えてきます。つまり彼の平面作品からは、レリーフ的な立体感や、視覚的なイメージを超えようとする触覚性が感じられるのです。

「駆馬神事」を捉える

《駆馬神事》(❶)を見てみましょう。描かれているのは、京都の藤森神社で年に一度行われている行事の中で披露される技のひとつ。そこで馬の乗り手は、敵から飛んでくる矢から身を防ぐべく、自分の頭を馬の頭の横に、身体はほぼ水平にと、すごく低い態勢で駆け抜けます。アマチュアカメラマンにも人気のこの情景を木村はどのように描いているか。

まず気づくのが大胆なトリミングでしょう。画面右手に馬の顔があり、そこから少し左にいったところに人の顔が見えますが、馬の体はほとんど見えません。また、馬具が強烈な赤で塗られていて、画面を大胆に区画する抽象絵画における線のようにも見えるのもおもしろいです。さらに、馬の頭部が青く描かれることで、まるで風に溶け込んでいるかのようにも感じられるでしょう（画面左側に比べて、馬の頭部における楔の密度が著しく低いのもポイントです)。そうした中で、乗り手の鋭いまなざしをきちんと捉えることによって、この絵はぐっと引き締まったものとなっています。

色鉛筆を使いこなして

作者の木村は1984年生まれ。京都市ふしみ学園で制作をしています。18歳以上を対象とした生活介護施設である同学園は、2008年に、主に軽作業に取り組むことが難しい人のために、療育目的での創作活動の場として「アトリエやっほぅ‼」をスタートさせました。最初は学園で陶芸をしていた木村も、アトリエができるとそれに参加し、本格的に絵を描き始めます。もともと、陶芸でも下絵を描いていた木村にとっては、平面作品のほうが相性がよかったのかもしれません。やがて彼は、平日は毎日6時間描くほど集中するようになりました。

実は初期の作品に楔形はありませんでした。しかし、影を表現する部分に現れたあと、それが画面全体に増殖するようになったといいます。モチーフは、家族と出かけたときに撮影された写真や、インターネットで検索したイメージの中から、スタッフと相談して決めるそうです。

使う画材は、150色もある色鉛筆。そのうちの数本を左手に持ちながら、右手にとった一本＝一色で塗り込んでいきます。写真など何も見ずに描くときもありますが、その際は、《好きな食べ物》(❷)のように楔形が用いられません。またミレーの名作をモチーフに描かれた2020年の《種を撒く人》(❸)に見られるように、近作では、楔形が以前よりも大きくなっているのも特徴です。

保坂 健二朗 ほさか・けんじろう

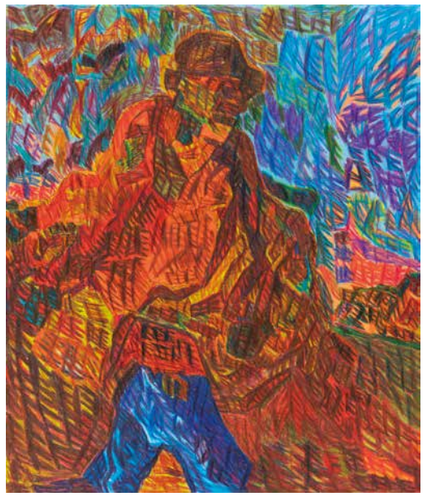
滋賀県立美術館ディレクター(館長)。1976年茨城県生まれ。慶應義塾大学大学院修士課程修了。東京国立近代美術館主任研究員を経て現職。著書に『アール・ブリュット アート日本』(監修、平凡社)など。滋賀県立美術館では「人間の才能 生みだすことと生きること」展(2022年)を企画。



❶《駆馬神事》色鉛筆、パネル　91×117㎝　2013年
この技は、手綱よりも下で両手を広げる「手綱潜り」と呼ばれるもの。本来右脚も高くあげるがここでは大胆にトリミングされ、人馬一体感が見事に表現されている。乗り手は赤シャツの上に鎖帷子を模した衣装を着るが、その部分は楔なしで克明に描いている。



❷《好きな食べ物》色鉛筆、紙　27×38・1㎝　2017年
写真を見ず記憶だけで描く際には、楔がなくなるだけでなく、形も背景もシンプルになることも興味深い。果物×2、野菜×2、寿司×2という組み合わせもユニークだ。



❸《種を撒く人》色鉛筆、紙　40・8×34・5㎝　2020年
ミレーの《種を撒く人》とすぐにわかるのに、トリミングにより新しい魅力がきちんと生まれているのは見事。その他ゴッホの自画像や写楽の浮世絵などもモチーフに。

令和7年度版中学校『美術2・3』P.105には、木村の作品が掲載されています。



ここで木村が取り組んでいるのはいわゆるロンドンタクシー。参照している写真からもわかるように、本来は黒一色だ。でも木村はそれを、落ち着いた色調でカラフルに描く。楔の形状が木に似ていることもあって、森林のような風景が生み出されている。また、最終的には画面全部を塗りつぶすのが木村の制作の特徴であるが、途中では結構余白がとられていることもわかる。車の下の影が黒でベタ塗りになっているあたりも見逃せない。

画像提供：art space co-jin「アートと障害のアーカイブ・京都」



第 25 回

「自画像」

横尾忠則（よこおただのり）

アクリル、キャンヴァス　100.2×99.9㎝　1983年
横尾忠則現代美術館蔵（兵庫県）

※高等学校『美術1』P.35に掲載

心で感じる色

小学生の頃、美術の授業でひまわりの絵を描きました。花を観察しながらクレヨンで描くのですが、私はひまわりの黄色い花びらをオレンジ色や赤色で描いてみました。すると私以外のみんなは黄色で描いていたので、友達に、どうしてその色を選んだの？と不思議そうに聞かれました。「いろんな色で描いたほうが、ひまわりが嬉しそうだから」と答えると、その友達には笑われてしまったのですが、絵は実際に見えた色でなくとも、そのときに感じた色で自由に描いても良いのだと私は思っています。

横尾忠則さんの自画像は、色鮮やかで勢いのあるマチエールが巨大なキャンバスの中で今にも動き出しそう。気迫に満ちた複雑な表情は、喜びか、悲しみか？見ている私たちの想像を掻き立てます。揺れる感情が極彩色で表現され、制作過程はきっと色彩の旅をするような感覚だったのではないでしょうか。

自画像は私もこれまでに油絵やアクリルガッシュでも描いたことがありますが、この作品を眺めたとき、また改めて描いてみたいと思いました。見たままの自分を模写するのではなく心で感じた色で……。私自身をどんな色で描くのだろうとワクワクします。

普段からアートを見ることが好きな私は、絵画は鑑賞時に二つの視点で眺めるようにしています。最初は感じるままに「わぁ……！」なんて、ときどき声も出しながら。そしてじっくり堪能した後、作品の作家になったつもりで絵画を心でなぞり、どこから描きはじめたのだろう？どんな気持ちでこの色を選んだのかな？とプロセスを想像し楽しむのです。私にとって絵画を眺めることは、まるでアトラクションのように絵を描く擬似体験をくれる特別な瞬間。素晴らしい絵画たちは鍛錬されたテクニックと合わせ、作家の心情が生き生きと宿っているからこそ心震えるのです。

皆さんはこれまでに自画像を描いたことはありますか？もし描く機会があれば、素直に感じた色で自分を描いてみてもおもしろいかもしれません。心で視（み）えた色は自分だけが表現できる自由な世界なのですから。

篠原 ともえ
しのはら・ともえ

1979年東京都生まれ。デザイナー、アーティスト。
文化女子大学短期大学部
服装学科デザイン専攻卒。
1995年歌手デビュー。メディアでの活動を経て、
現在はデザイナーとして創作活動を続け、
松任谷由実、嵐など、アーティストの
ステージ衣装などを手がけている。
また、2022年には、デザイン・ディレクションを
手がけた革きものが、ニューヨークADC賞（銀・銅）、
東京ADC賞を受賞。

光村図書ウェブコンテンツのご案内
「生徒作品ギャラリー ART BY STUDENTS」

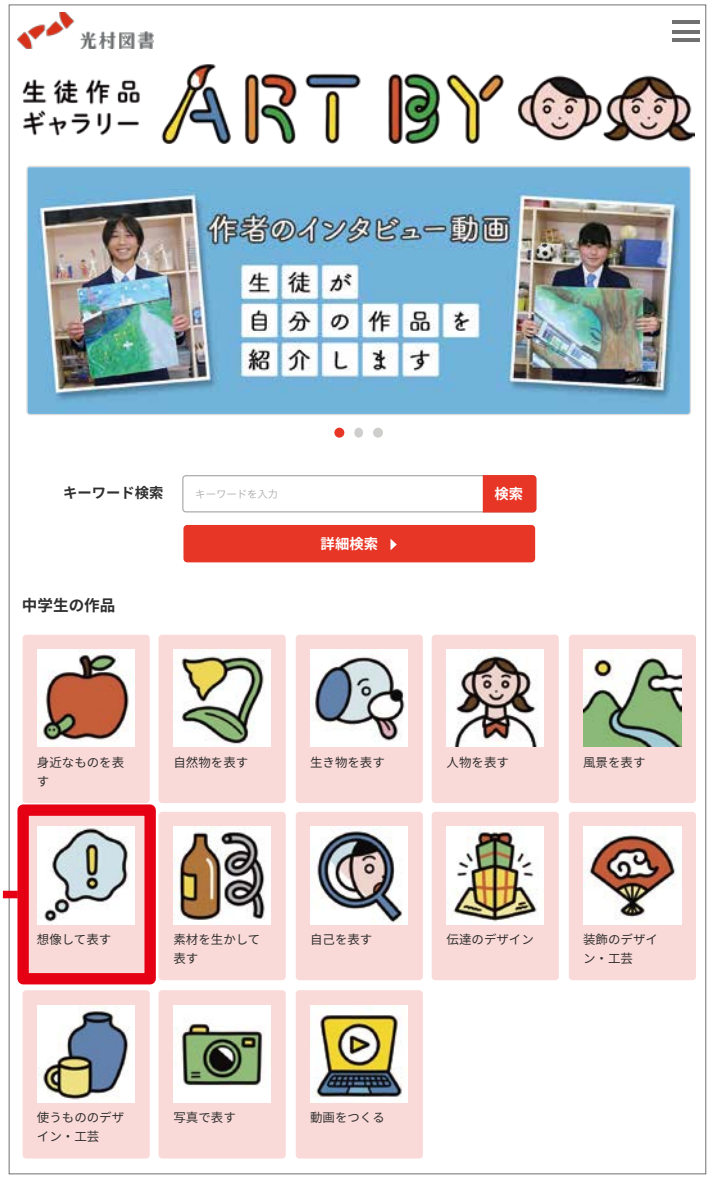
ウェブサイト上で、全国の中学校・高等学校の生徒作品をご覧いただけるコンテンツ「生徒作品ギャラリー ART BY STUDENTS」を公開しています。

1500点以上に及ぶさまざまな作品（2024年8月現在）を、ジャンル別にご紹介。キーワードや描画材などから作品を検索することが可能です。また、作者のインタビュー動画を視聴することもできます。国内最大級の生徒作品ギャラリーをぜひ、ご活用ください。

「ART BY」は
こちらから
アクセスできます。



各作品に
「作者の言葉」を掲載。
作品に込めた思いや
制作意図を
ご覧いただけます。



「ART BY」トップページ。風景画や自画像、ポスター、木工芸、写真など、さまざまな作品を見ることができます。

光村図書
ウェブサイト
光村図書
検索

小・中・高等学校
教科書訂正の
お知らせ

LINE
光村図書
LINE公式
アカウント
友だち募集中！

美術準備室 No.25
2024（令和6）年11月5日

発行人■吉田直樹
発行所■光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9　電話：03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp
デザイン■Better Days（大久保裕文+深山貴世）
印刷所■光村印刷株式会社

個人情報の取り扱いに関しては、
弊社「個人情報保護方針」にのっとり、
適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。

教育情報誌に関するお問い合わせ先
住所変更・配送停止▶ej1@mitsumura-tosho.co.jp
ご意見・ご感想▶koho@mitsumura-tosho.co.jp

光村図書